

事業所における自己評価総括表

公表				
○事業所名	キッズスタジオ オリーブの木			
○保護者評価実施期間	令和7年12月15日 ～ 令和8年1月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数)	36
○従業員評価実施期間	令和7年12月15日 ～ 令和8年1月15日			
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	- 児童一人ひとりの発達段階や特性、気持ちの変化を丁寧に把握し、安心して過ごせる生活環境（健康・生活）を整えている。 - 学習活動・表現活動・体験活動を通して、認知面・運動面・感覚面に偏りのない支援を行い、「できた」という成功体験を積み重ねている（認知・行動／運動・感覚）。 - 活動の見通しを事前に伝えることで、不安の軽減や情緒の安定につなげ、主体的な行動を引き出している（健康・生活）。 - 職員間で日々の様子を共有し、保護者とも連携を図りながら、家庭と事業所が一体となった支援を行っている（人間関係・社会性）。	- 活動内容や流れを事前に伝え、「今日はこれとこれを行う」と具体的に示すことで、見通しを持って安心して取り組めるよう支援している（健康・生活）。 - 年齢や自尊心の育ちに配慮し、集団の中での学習への抵抗感が強い場合には、声かけや環境調整を行い、無理のない参加を促している（人間関係・社会性）。 - 文節で覚える、視覚的に確認するなど、児童の認知特性に応じた学習方法を取り入れ、ワーキングメモリーの育成につなげている（認知・行動）。 - 気持ちや考えを言葉で伝える機会を大切にし、職員が受け止めながら言語化を支援している（言語・コミュニケーション）。 - 小さな達成や努力の過程を丁寧に認めることで、自己肯定感や意欲の向上を図っている。	- 児童の成長や年齢に伴う心理的变化を踏まえ、活動内容や関わり方を柔軟に見直しながら支援の質を高めていく。 - 学習支援に加え、集団の中での安心感や他者との関わりを大切にし、社会性の育ちを意識した支援を継続する。 - 職員間での振り返りや意見交換を行い、5領域を意識した支援の共通理解を深めていく。 - 保護者との情報共有を継続し、家庭での様子も踏まえた一貫性のある支援につなげていく。
2	元教職員や保育士、専門機関での支援経験を持つスタッフが在籍しており、生活面・対人面だけでなく学習面の困りごとにも専門性をもって丁寧に対応できている。 専門講師・プロの講師から学べる環境や、多様で充実した活動プログラムを通して、子どもの興味・関心を引き出し、学びや成長につなげる支援ができています。 非認知能力（挑戦する力、やり抜く力、自己肯定感、協調性等）を重視したプログラムにより、子どもの可能性を広げ、将来につながる力を育む支援が行えている。 仲間と共に安心して過ごし、成功体験や達成感を共有できる、「居場所」としての役割を大切にした支援環境が整っている。	活動が体験で終わらないよう、支援計画に5領域を明記し、日々の活動を発達支援に結びつけている。 学習スペース（別室・パーテーション）、個別室、クールダウン場所を確保し、子どもの状態に応じて環境を切り替えている。 LINEによる写真・動画付き活動報告や必要時の電話連絡など、保護者との密な情報共有を行っている。 外部講師研修や事業所内研修を実施し、学びを現場の支援に反映する意識を持って取り組んでいる。	会報誌・ホームページ・SNS等を活用し、支援内容や安全対策、研修の取組を**より分かりやすく「見える化」**していく。 野外活動や外出時の活動内容に応じた人員配置・役割分担をさらに明確化し、安全管理体制を一層強化する。 ヒヤリハットの事例集作成や共有方法を整備し、再発防止と職員全体の安全意識向上につなげていく。

3	自然活動・野外活動・社会体験・音楽・PC等の体験型活動を5領域に接続した支援設計ができており、「楽しい」「できた」体験が育ちにつながっている。 写真・絵表示、スケジュール、タイマー等を用いた環境構成（構造化）が丁寧で、子どもが見通しを持って安心して行動しやすい。 毎日のスタッフ会議、月1回の全体会議、支援記録の蓄積により、PDCAが回りやすい運営体制が整っている。 自然活動が多い中でも、下見・危険箇所共有・訓練等を重ね、安全配慮の意識が高い事業所文化が根付いている。	文教職員・保育士・専門機関経験者それぞれの強みを生かし、生活面・対人面・学習面を切り離さず、子どもの全体像を捉えたチーム支援を行っている。 学習面では、子どもの理解度やつまずきに合わせて方法や関わり方を調整し、「分かった」「できた」という経験を積み重ねる支援を意識している。 専門講師・プロ講師による活動では、単なる体験に終わらず、達成感や仲間との協働、挑戦のプロセスを大切にし、非認知能力の育ちにつなげている。 日々の活動や集団場面の中で、成功体験を言葉で振り返り、自己肯定感や仲間意識が高まる声かけ・関わりを意識的に行っている。 子どもが安心して過ごせるよう、雰囲気づくりや関係性を大切にし、「また来たい」と思える居場所づくりを心がけている。	スタッフそれぞれの専門性や得意分野をより明確にし、ケースに応じて役割を分担することで、支援の質と一貫性のさらなる向上を図る。 非認知能力の育ちについて、支援記録や振り返りの視点を整理し、成長の見える化・共有を進めていく。 専門講師・プロ講師との連携を深め、活動後の振り返りや支援への接続を強化し、日常支援とのつながりをより明確にする。 保護者への発信やフィードバックを充実させ、家庭と連携しながら、子どもの成長を共に支える体制をより強固なものにしていく。 子ども同士が関わり合い、支え合える経験をさらに増やし、仲間と共に育つ居場所としての機能を一層高めていく。
---	---	--	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容や支援のねらいについて、日々の様子はお伝えできている一方で、年間を通した見通しや成長の積み重ねを、より分かりやすくお伝えできる余地があると感じています。	活動内容が多岐にわたる分、支援のねらいや育てたい力を、保護者の皆さまに分かりやすい形で整理・共有する工夫が十分ではなかったと考えています。	活動の中で育てたい力（学習面・非認知能力・社会性等）を、保護者の皆さまにもイメージしやすい言葉で共有し、ご家庭と同じ方向を向いて支援できるよう努めています。
2	野外活動や外出活動が多い分、活動内容によっては職員体制や役割分担をさらに丁寧に整理することで、より安心して参加いただける環境づくりができると考えています。	自然体験や外出活動を大切にしてきた中で、活動内容や場所によって必要となる支援の形が異なるため、職員の配置や役割分担について、より分かりやすく整理できる余地があると感じています。 子ども一人ひとりの安全や安心を最優先に考え、状況に応じて柔軟に対応してきた一方で、事前の役割整理や共有方法をさらに丁寧に行うことで、より安心感につながると考えています。 活動の幅が広がるにつれ、職員間での共通理解や役割の明確化を、より一層意識する必要性を感じています。	野外活動や外出活動の際には、活動内容に応じた職員配置や役割分担を事前に整理・共有し、安全確認や見守り体制をより明確にしていきます。 活動前の打ち合わせや下見をさらに丁寧に行之、想定される場面や対応方法を職員間で共有することで、安心して参加できる環境づくりを進めていきます。 子どもの年齢や特性、活動の目的に応じて、必要なサポートが行き届く体制づくりを継続して検討していきます。 保護者の皆さまにも活動内容や体制について分かりやすくお伝えし、安心してお預けいただけるような情報共有を心がけていきます。
3	保護者同士が交流できる機会について、イベント時以外にも、つながりや情報交換ができる場を広げていく余地があると感じています。	これまでイベントや行事を通して保護者同士が顔を合わせる機会はありませんでしたが、日常的に交流や情報交換ができる場を設ける機会が限られていたことが要因の一つと考えています。	イベント時だけでなく、少人数・短時間でも参加しやすい交流の場を検討し、無理のない形で保護者同士のつながりを広げていきます。 保護者懇談会や勉強会、食育セミナー等を通して、情報交換や悩みを共有できる機会を段階的に増やしていきます。 直接集まることが難しい場合には、会報誌やLINE等を活用した情報共有も取り入れ、保護者同士が安心してつながれる工夫を行っていきます。 事前にアンケート等でご意向をお聞きし、保護者の皆さまの声を反映した形で交流の場を企画していきます。